

奥飞騨温泉郷活性化基本構想

令和 4 年 3 月

高山市

目次

第1章	奥飛騨温泉郷活性化基本構想の策定にあたって	1
1	策定の経緯と趣旨	2
2	位置付け	2
3	目標とする姿	3
4	期間	5
5	目標とする数値	5
第2章	奥飛騨温泉郷を取り巻く状況	6
1	宿泊者数の推移から見た状況	7
2	宿泊施設数の推移	8
3	主な調査の概要	8
第3章	課題の分類と視点、方向性について	11
1	4つの視点ごとの課題と取り組みの方向性	12
2	松本高山Big Bridge構想との関連について	16
第4章	奥飛騨温泉郷の今後の取り組み	18
	＜特色ある観光地＞	
	①山岳と温泉を活かした温泉地づくりの推進	19
	②自然資源や歴史的文化的文化資源の活用推進	19
	③健康と観光を併せたツーリズムの推進	19
	④特産品ブランド化と利用推進	20
	＜自然エネルギーの活用による脱炭素対策＞	
	⑤自然エネルギーの有効活用促進	20
	＜安全・安心＞	
	⑥道路整備促進及び域内の円滑な移動の推進	20
	⑦防災体制の強化及び対策の推進	20
	＜体制・人材＞	
	⑧持続可能な温泉地のための体制づくり、人材確保及び育成の推進	21
第5章	奥飛騨温泉郷活性化基本構想の推進にあたって	23

第1章

奥飛騨温泉郷活性化基本構想 の策定にあたって

第1章 奥飛騨温泉郷活性化基本構想の策定にあたって

1 策定の経緯と趣旨

これまで奥飛騨温泉郷では、飛騨山脈（北アルプス）の雄大な自然景観と豊かな温泉資源を活用した滞在型観光・交流の振興など、官民が一体となって観光地づくりをすすめてきましたが、宿泊客数は、平成4（1992）年の約114万人をピークに減少し続けています。

こうした中、平成29（2017）年度には、旅行者ニーズ把握のためのGAP調査¹を実施し、平成30（2018）年度には、地域活性化に向けた基礎調査として、市民や地域関係団体、利用者等からの意見聴取と課題の把握を進めてきました。

また、令和元（2019）年度からは、これらの課題などを踏まえた奥飛騨温泉郷活性化基本構想の策定に向けた分析を行うとともに、令和2（2020）年度には、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、市民や地域関係団体から聴き取り調査を改めて行いました。

令和3（2021）年3月に中部山岳国立公園南部地域利用推進協議会が策定した「中部山岳国立公園南部地域利用促進プログラム2025」²（以下「プログラム2025」という。）では、中部山岳国立公園南部地域の地域資源を最大限に活用し、上質で多様な利用と滞在を提供することで「世界水準のディスティネーション³の実現」を目指すこととしています。「プログラム2025」においては、中部山岳国立公園を中心とした、松本市街地と高山市街地間を魅力的な観光ルートに磨きあげる「松本高山Big Bridge構想⁴」を推進することとしており、奥飛騨温泉郷もその一翼を担う地域としての重要な役割が求められています。

こうしたことを踏まえ、奥飛騨温泉郷一帯が持続可能な地域となるため、市民や地域、事業者及び行政等が、共通の課題認識のもと目標とする将来の姿に向けて互いに連携し、奥飛騨温泉郷が持つ強みと自然エネルギーのポテンシャル⁵を活かし、環境に配慮した魅力的な観光地として活性化が図られるよう、奥飛騨温泉郷活性化基本構想を策定します。

2 位置付け

高山市第八次総合計画を上位計画とし、「プログラム2025」をはじめとする各種計画との整合を図りつつ、まちづくり協議会や各協会など地域の人々と、国、県、市など行政が、適切な役割分担によって互いに連携し、飛騨山脈が持つ多様で豊富な自然資源を

¹ 地域の観光資源について、「認知度」と「興味度」を把握、そのギャップを明らかにし、プロモーション展開の方向性を明確化できる調査（株式会社 リクルート ジャらんリサーチセンター）

² 中部山岳国立公園南部地域（松本市・高山市）において、2021年度（令和3年度）から2025年度（令和7年度）を目標年とし、ウイズコロナ・ポストコロナのニューノーマル時代において、本地域独自の価値や魅力、持続可能な地域づくりにつなげるための取り組み

³ 旅行目的地、旅行先のこと。国や都市、地域全体を指すこともある。

⁴ プログラム2025に位置付けられたメインとなるもの。中部山岳国立公園南部地域を間に挟み、松本市街地と高山市街地を繋ぐ横断ルートを「Big Bridge（ビッグブリッジ）」と位置付け、多彩で上質な体験と滞在ができる魅力的なルートの整備に向けて、県境を越えた地域一体となった観光圏の確立を目指す取り組み

⁵ 潜在能力や可能性、将来性という意味

活かしたまちづくりや産業振興と自然環境保全との両立を図るための基本的な考え方を示すものです。

3 目標とする姿

全国屈指の湧出量と良質な泉質を誇る温泉や、豊かな自然が体感できるといった奥飛騨温泉郷が持つ魅力（強み）に加え、自然エネルギーのポテンシャルを活かした、多彩で上質な体験と滞在ができる魅力的な観光地として、より一層の活性化を図るため、以下のとおり将来の姿を描きます。

(1) 奥飛騨温泉郷全体の目標とする将来の姿

「世界水準の山岳観光を満喫し、
豊富な温泉に癒される人々で賑わう奥飛騨温泉郷」

(2) 5つの温泉地の目標とする将来の姿

《平湯温泉》

平湯温泉を中心に周辺の新穂高、乗鞍、上高地などへの人々の往来が盛んであるとともに、平湯バスターミナルを中心に多くの人々が回遊する温泉地



《福地温泉》

青だるライトアップ等季節に応じたイベントを楽しみつつ、昔ばなしの里や温泉街周辺などを回遊する多くの人々で賑わう温泉地



《新平湯温泉》

タルマかねこおりまつり等季節に応じたイベントを楽しみつつ、しのぶ砂防ダム親水公園周辺などを回遊する多くの人々で賑わう温泉地



《栃尾温泉》

栃尾温泉桜ライトアップ等季節に応じたイベントを楽しみつつ、たから流路工親水公園や洞谷砂防堰堤周辺などを回遊する多くの人々で賑わう温泉地



《新穂高温泉》

新穂高ロープウェイや新穂高センターなどの山岳観光のための施設に、多くの登山客等が訪れ、雄大な飛騨山脈（北アルプス）の景観を満喫できる温泉地



4 期間

令和 3（2021）年度から令和 12（2030）年度までの 10 年間

5 目標とする数値

令和 7（2025）年度（中間目標）奥飛騨温泉郷の宿泊者の観光消費額 255 億円

平成 30（2018）年の観光消費額 210 億円に対して、日本人 1 人当たり 20%増、外国人 1 人当たり 30%増として、令和 7（2025）年に、奥飛騨温泉郷の観光消費額 255 億円を目標値とします。

（参考）平成 30（2018）年 210 億円

奥飛騨温泉郷の宿泊者数 605 千人×1 人当たりの観光消費額 34,692 円

- ・「プログラム 2025」では、2025 年の一人当たりの観光消費を 2018 年 1 人当たりの消費額から日本人 1 人当たり 20%増、外国人 1 人当たり 30%増として算出していることを参考とし、平成 30(2018)年度の観光消費額（宿泊客）をベースに数値目標を算定しています。

第2章

奥飛騨温泉郷を取り巻く状況

第2章 奥飛騨温泉郷を取り巻く状況

近年の奥飛騨温泉郷の観光の現状として、旅行需要の縮小や旅行形態の多様化、個人嗜好の変化などにより、宿泊者数や宿泊施設数の減少が続いています。

また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響なども重なり、奥飛騨温泉郷を取り巻く状況は年々厳しさを増しています。

こうした状況の中、宿泊者数の推移と宿泊施設数の推移に注目し、奥飛騨温泉郷の観光の活性化を図るために必要な項目を把握することを目的とした調査を行いました。

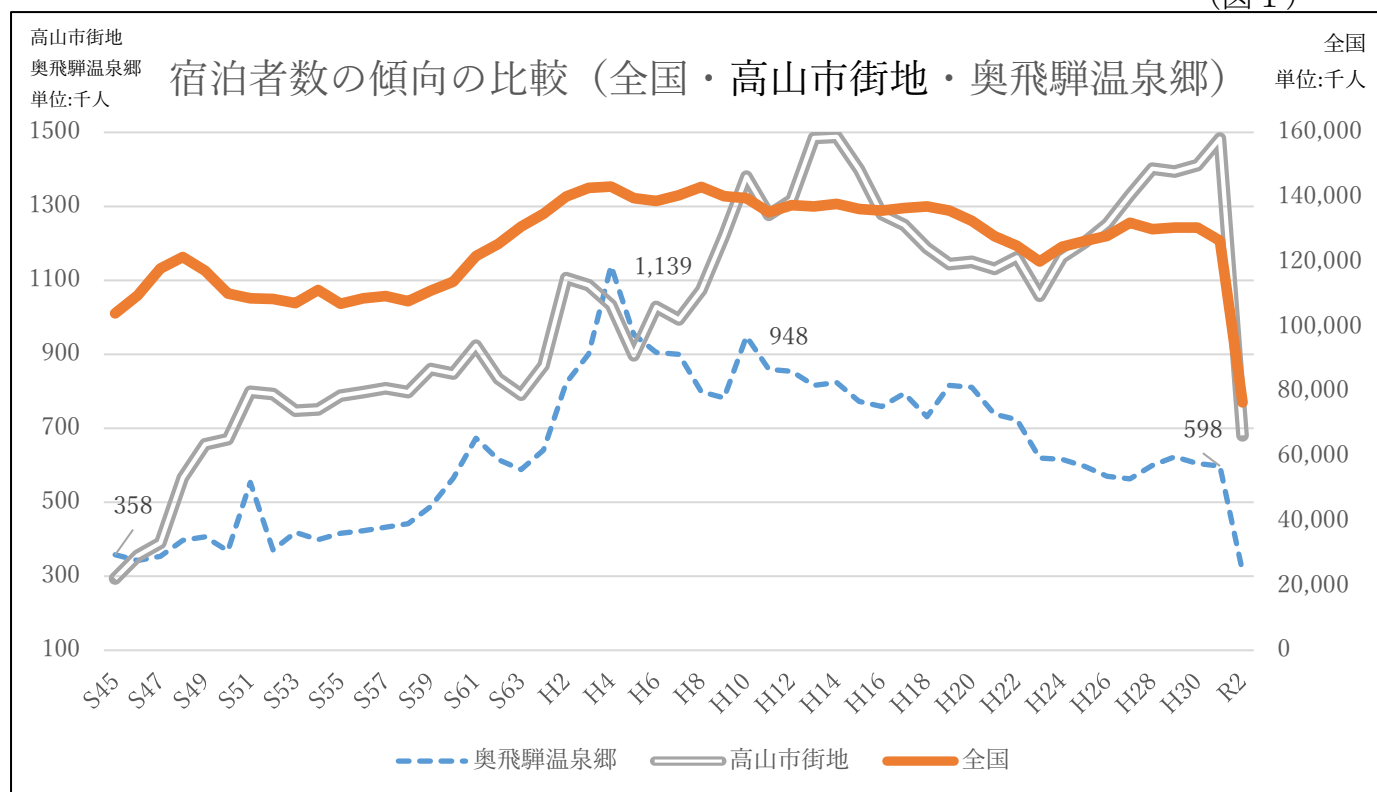
1 宿泊者数の推移

奥飛騨温泉郷における宿泊者数は、平成4（1992）年の約114万人をピークに減少傾向が続いています。安房トンネルが開通した翌年の平成10（1998）年には約95万人と一時的に増加に転じたものの、その後も減少傾向が続き、平成31年・令和元（2019）年には約60万人まで減少しています。

一方、高山市街地においては平成23（2011）年の約105万人から、平成31（2019）年には約148万人へと大幅な増加がみられます。

しかしながら、令和元（2019）年からの世界的な新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2（2021）年は両地域とも大幅な減少となりました。（図1）

（図1）



出典：高山市「観光統計」、環境省「温泉利用状況経年変化表」

※「観光統計」では、「高山地域」と「上宝地域」

として表現されていますが、ここでは、「高山市街地」と「奥飛騨温泉郷」と表記します。

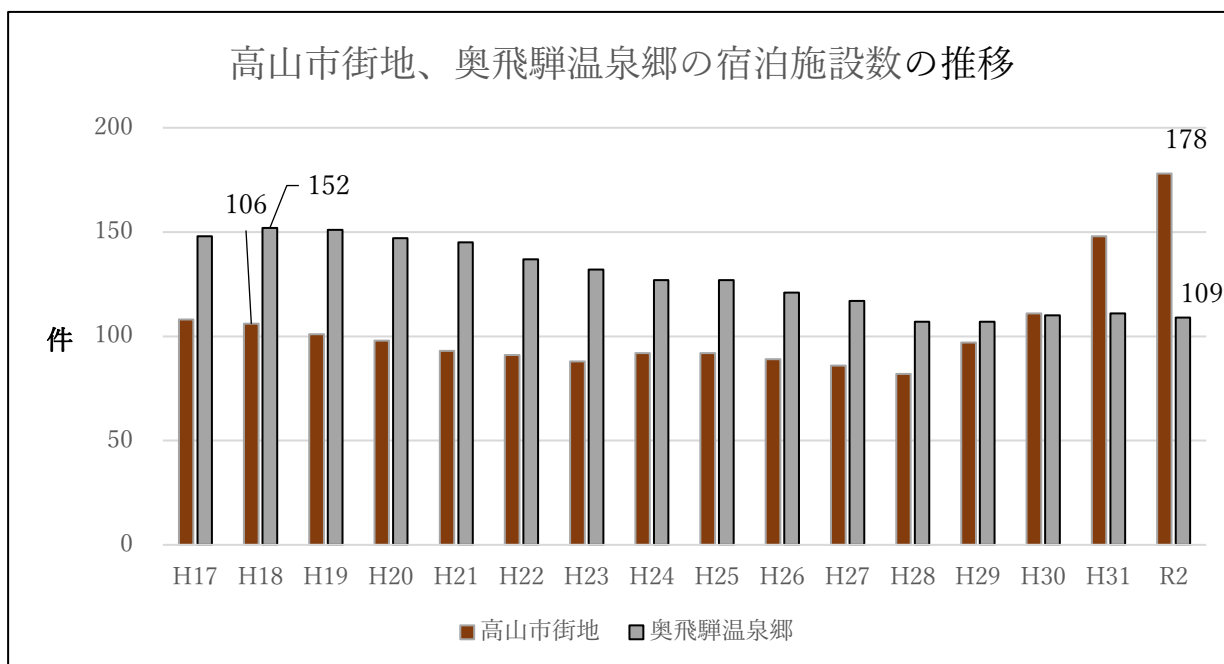
2 宿泊施設数の推移

奥飛騨温泉郷の宿泊施設数は、平成 11（1999）年の約 170 軒をピークに減少を続け、令和 2（2020）年には、約 109 軒となっています。

一方、高山市街地の宿泊施設数は、平成 28（2016）年には約 82 軒まで減少しましたが、それ以降は増加しており、令和 2（2020）年には約 178 軒となっています。

奥飛騨温泉郷では、後継者不足や働き手不足も課題となっており、平成 18（2006）年以降宿泊施設数の減少傾向に歯止めがかからない状況です。（図 2）

（図 2）



出典：高山市「観光統計」

3 主な調査の概要

①平成 29（2017）年度GAP調査

株式会社リクルートじゃらんリサーチセンター⁶が実施したインターネット調査のモニター会員男女 1,040 名を対象にGAP調査を実施しました。その結果、奥飛騨温泉郷の認知度が全国の温泉地と比較して低く、特に若年層に認識されていない傾向でした。

一方、奥飛騨温泉郷の雪見露天・新穂高の湯・平湯大滝公園・露天風呂日本一などに対する興味度は、高い傾向でした。

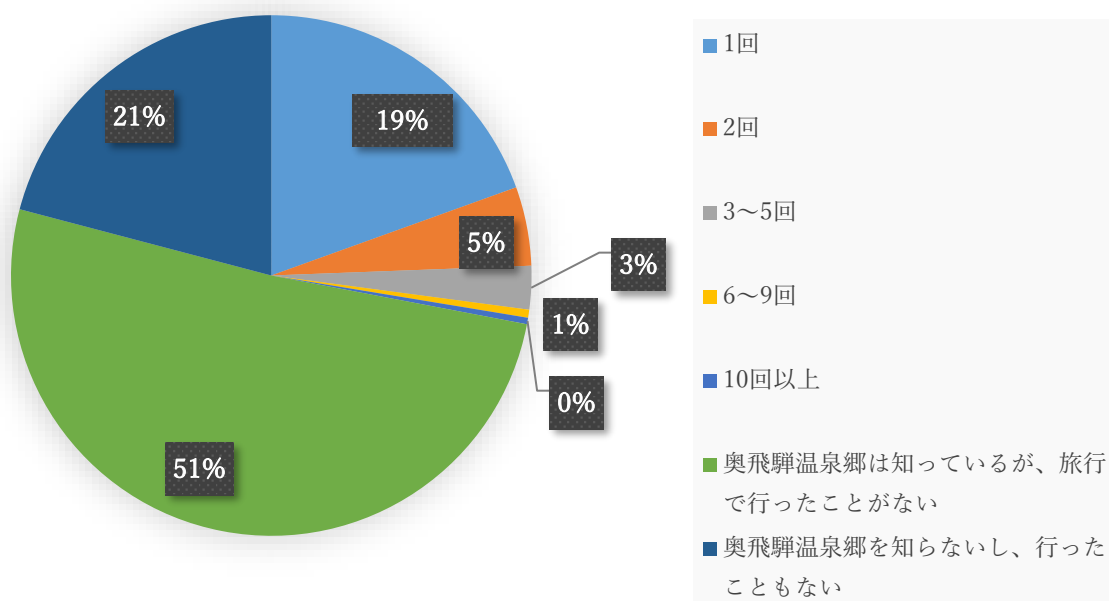
<世代ごとの認知度と旅行経験>

- ・「奥飛騨温泉郷を知らないし行ったこともない」人の割合は全体で約 20%
- ・20代は約 32%と高く、若年層ほどその割合が高い。
- ・60代以上は約 10%と、若年層と比べて低い。

⁶ 株式会社リクルートじゃらんリサーチセンター：国内旅行に関する調査・研究をしている企業

- ・「奥飛騨温泉郷を知っているが行ったことはない」人の割合は全体で約 50%
 - ・ 20代は約 30%と低く、若年層ほどその割合が低い。
 - ・ 60代以上は約 60%と、若年層と比べて高い。
- ※若年層は「知らない」人が多く、中高年層は「知っている」人が多い。

奥飛騨温泉郷への旅行経験について



(回数は、奥飛騨温泉郷へ行ったことがある方の回数)

株式会社リクルートじゃらんリサーチセンター (GAP 調査)

②平成 30 (2018) 年度基礎調査

<奥飛騨温泉郷の活性化に関する奥飛騨温泉郷来訪者アンケート調査>

奥飛騨温泉郷の活性化を目的に、奥飛騨温泉郷に訪れた 1,687 名を対象に、旅行目的期待度・満足度等のアンケート調査を行いました。

◆旅行目的としての期待度

「観光施設・資源」、「露天風呂」、「食べ物・料理」、「接客」、「奥飛騨温泉郷全体」の各項目に対して、期待をしている人が調査対象者の 5 割でした。

一方、「移動公共交通手段」、「宿泊施設」、「昼食場所」、「土産品」の各項目に対して、期待をしている人は調査対象者の 2 割未満と低い状況でした。

◆旅行の満足度

「観光施設・資源」、「食べ物・料理」、「接客」、「奥飛騨温泉郷全体」の各項目に対して「満足」、「やや満足」と評価した調査対象者は5割以上でした。

一方、「移動公共交通手段」、「宿泊施設」、「昼食場所」、「土産品」の各項目に対する満足度は調査対象者の2割未満と低い状況でした。

③地元との意見交換

＜奥飛騨温泉郷の現状と課題に対する意見交換＞

平成30（2018）年12月と平成31（2019）年1月に、奥飛騨温泉郷観光協会や町内会の役員、民間事業者の代表の方々と奥飛騨温泉郷の観光課題などについて意見交換を行った結果、次のような意見がありました。

- ・飛騨・北アルプス自然文化センターを活用できるように工夫してほしい。
- ・中部山岳国立公園に立地していることをもっと活かすべきである。
- ・大きな資源である平湯大滝の活用を行うべきである。
- ・湯治を目的とした長期滞在への対応ができるとうい。
- ・奥飛騨温泉郷全体の食などのブランドが存在していない。
- ・中部縦貫自動車道の早期完成を望む。

＜新型コロナウイルス感染症拡大による新たな問題点と課題に対する意見交換＞

令和2（2020）年7月から8月にかけて、5つの温泉地の観光協会役員の方々と新型コロナウイルス感染症の拡大による観光業などへの影響や各温泉地のあり方について意見交換会を行いました。

その中で最も多かった意見は、各温泉地とも新型コロナウイルス感染症拡大に伴う移動自粛などに起因する入込み減による収入減や、収束後の支援の打ち切り、融資の返済などへの不安が多くを占めていました。

そのほか、次のような意見がありました。

- ・外国人客は激減したが、海外旅行をやめて国内旅行に変更した日本人が来ている。今後は、満足度をどのように上げていくかを考えるべきである。
- ・平湯大滝公園の利活用について、解体・撤去を行わないのであれば活用する方がよい。何もしないのは良くない。
- ・平湯地区内に、何でもわかる総合案内所としての機能を設けてほしい。
- ・上高地や乗鞍などの観光地とも連携できる仕組みづくりが大事である。
- ・地元に産業（雇用場所）が無く働き手もいなくなり、単に観光で人が来るというだけではなく、地域そのものの活力維持が問題である。
- ・奥飛騨温泉郷は、5つの温泉地それぞれが魅力を磨いていくことが大事である。
- ・街並み景観整備のための空き家の利活用や山岳観光など、地域全体を公園のようなイメージとしてほしい。
- ・川と触れ合い体験ができ、水と親しめる河川公園的なものがほしい。
- ・新穂高地区を登山者に便利で優しい登山基地にしてほしい。駐車場情報の事前案内や誘導案内もお願いしたい。

第3章

課題の分類と視点、方向性 について

第3章 課題の分類と視点、方向性について

1 4つの視点ごとの課題と取り組みの方向性

第2章でみてきた現状の調査結果や聴き取り調査から、奥飛騨温泉郷を取り巻く状況を踏まえ、課題を「特色ある観光地」、「自然エネルギーの活用による脱炭素対策」、「安全・安心」、「体制・人材」の4つの視点ごとに分類し、活性化に向けた8つの取り組みの方向性を設定しました。

●特色ある観光地

ここでは、課題を更に「山岳と温泉の活用に関すること」、「自然資源や歴史的文化資源の活用に関すること」、「健康増進に関すること」及び「特産品に関すること」の4つに類型化しました。

○山岳と温泉の活用に関すること

<課題>

- ・山岳景観や温泉は、それぞれに魅力ある資源であるが、山岳と温泉を絡めた魅力の発信が不十分で、顧客満足度が低い状況にある。
- ・奥飛騨温泉郷ならではの人情やおもてなし、自然、温泉、食すべての魅力向上に繋げるための人材育成の強化が必要である。
- ・中部山岳国立公園であり、山岳景観を楽しむことができる地域であるが、電線類や電柱、空き家、荒廃地などが景観を阻害している。また、インスタ映え⁷するスポットなどが多い反面、自然景観にマッチしない屋外広告物、建築物などがある。



<方向性>

①山岳と温泉を活かした温泉地づくりの推進

飛騨山脈（北アルプス）の登山口であること、四季を通じて豊かな自然景観を楽しめること、100を超える露天風呂があることなどの特性を活かし、山岳と温泉を絡めた美しい景観と特徴のある温泉地づくりをすすめます。

○自然資源や歴史的文化資源の活用に関すること

<課題>

- ・奥飛騨温泉郷の恵まれた自然資源や歴史・伝統文化の域外への情報発信や、誘客への取り組みを充実させる必要がある。
- ・平湯大滝公園や飛騨・北アルプス自然文化センターが休館状態となっているため、再整備などの対応が必要である。
- ・しのぶ砂防ダム親水公園周辺の有効活用がされていない。

⁷ 写真共有SNS「Instagram」に写真をアップロードし、公開した場合にひときわ見栄えよく見える（映える）という意味の表現

- ・奥飛騨温泉郷でしか味わえない「食」にこだわった料理の提供が少ないため、ご当地グルメの印象が薄く充実を図る必要がある。
- ・地元食材や伝統工芸等を導入した経営の充実を図る必要がある。



<方向性>

②自然資源や歴史的文化資源の活用推進

日本列島の形成に関わる岩石や継続的な地殻変動の痕跡が随所で見られることを踏まえ、地域の自然や歴史的文化資源を活かした地域づくりをすすめます。

○健康増進に関すること

<課題>

- ・様々な泉質や効能を活かした温泉療法や長期滞在など「湯治」の取り組みを充実させる必要がある。
- ・国民保養温泉地⁸の指定を受け「奥飛騨温泉郷国民保養温泉地計画」を策定しているため、計画に基づく取り組みを進める必要がある。
- ・地域に根差した食と歴史文化に温泉を絡め、心身ともに健康になることを目的として実施しているクアオルト⁹やONSEN・ガストロノミーツーリズム¹⁰に、一定の成果はみられるが、定着までには至っていない。



<方向性>

③健康と観光を併せたツーリズム¹¹の推進

豊富な湧出量を誇る5つの温泉地がそれぞれ異なる景色や泉質を有する特徴を踏まえ、豊かな自然と温泉を活かしたツーリズムを推進します。

○特産品に関すること

<課題>

- ・米や山椒など域外に誇れる産物があるが、宿泊施設での域内産品調達率は4割未満であり、観光と連携した地元産物の高付加価値化を図る必要がある。
- ・飛騨高山（奥飛騨温泉郷）ブランドの確立、維持、発展のための地産地消の推進が必要である。

⁸ 温泉の公共的利用増進のため、温泉利用の効果が十分期待され、かつ健全な保養地として活用される温泉地を温泉法に基づき環境大臣が指定したもの

⁹ ドイツ語のクア「治療、療養、保養のための滞在」とオルト「場所、地域」を合わせた「療養地」

¹⁰ ガストロノミーツーリズムとは、その土地の気候風土が生んだ食材・習慣・伝統・歴史などによって育まれた食を楽しみ、その土地の食文化に触れることを目的としたツーリズム
ここに「温泉」をプラスした新しい体験が「ONSEN・ガストロノミーツーリズム」

¹¹ 観光行動する場合、狭い意味では他国、他地域の風景、風俗、文物等を見たり体験したりすること。広い意味では、観光旅行とほぼ同義で、楽しみを目的とする旅行

- ・温泉熱を利用した地域の特産品はあるが、ブランド化¹²や魅力向上に向けてのアピールが不足している。



<方向性>

④特産品ブランド化と利用推進

地域の特産品は、奥飛騨温泉郷地域に限定することなく、市内全域の産物・製品などを活かし、それらのブランド力の強化を図ります。

●自然エネルギーの活用による脱炭素対策

○自然エネルギーの活用に関すること

<課題>

- ・地域固有のエネルギーである地熱や水力等の地域内における利用拡大に向けた積極的な取り組みが必要である。
- ・地域貢献型、地域循環型の自然エネルギー利用の推進が必要である。
- ・地熱を有効活用した地域内の安定した電力供給や排熱利用の取り組みがすすんでいない。
- ・脱炭素対策社会実現のためのEV¹³の活用促進が不十分である。
- ・自然エネルギーの活用や企業誘致についての積極的な取り組みが必要である。



<方向性>

⑤自然エネルギーの有効活用促進

奥飛騨温泉郷の有する地熱や水力など、豊富な自然エネルギーによる発電及び排熱を利用した企業誘致により脱炭素社会の推進を図ります。

●安全・安心

ここでは、課題を更に「交通アクセス等に関すること」及び、「自然災害への備えに関すること」の2つに類型化しました。

○交通アクセス等に関すること

<課題>

- ・市の東の玄関口として基幹道路との結節点の機能強化が必要である。
- ・観光振興を図る必要性から、温泉街に近い場所に公共駐車場の整備が必要である。
- ・温泉街の中を走る国道471号の交通量が多いため、温泉街の道路をバイパス化し、散策のための環境づくりが必要である。
- ・公共交通で訪れた観光客が5つの温泉地間を容易に移動できる手段が必要である。
- ・登山シーズンには駐車場不足が要因となり、違法路上駐車による交通渋滞が発生し、住民生活に支障を来していることから、駐車場対策を図る必要がある。



¹² 他の商品やサービスとの差別化すること、それ独自の価値を意味する。

¹³ 「EV」は「Electric Vehicle」の略で、電気自動車

<方向性>

⑥道路整備促進及び域内の円滑な移動の推進

中部縦貫自動車道、国道 471 号、主要地方道国府見座線などの整備促進により、交通の利便性向上を図ります。

また、周辺観光地への交通拠点並びに駐車場不足に伴う交通対策として、駐車場整備による利便性向上を図ります。

○自然災害等への備えに関すること

<課題>

- ・山岳地域特有の自然災害等（火山、地震、豪雨、豪雪）への備えが重要である。
- ・登山者のための安全・安心な登山道の整備が必要である。
- ・奥飛騨温泉郷に留まらず、丹生川地域や松本地域などと一体的に取り組む体制の必要性が求められている。
- ・奥飛騨温泉郷地域は標高が高く、急峻な地形であることから、降雪や凍結等、冬期間道路への対策が必要である。



<方向性>

⑦防災体制の強化及び対策の推進

火山災害などを想定した防災訓練や防災教育、直轄砂防事業などによる防災力の強化を図ります。

また、活火山である焼岳、乗鞍岳などにおける国や周辺自治体などと連携した火山防災対策などにより、安全性の向上を図ります。

●体制・人材

○地域組織や人材確保、育成に関すること

<課題>

- ・各温泉地がしっかりと特色を持って、全体で1つの「温泉街道」となるようにする必要がある。
- ・山岳観光を積極的に推進する地域の強い意志とそれを支える各事業者との連携・協力が必要である。
- ・経営者や従業員の高齢化などによる人手不足など、将来に向けて夢を持てる状況にないと答える事業者が多い。
- ・入湯税の使途のあり方などについて、見直しの意見がある。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で収入がない中、公共料金や税金などの固定費、施設の維持管理経費や各種団体の会費などが負担となっている。
- ・宿泊業を廃業した事業者が多く観光協会員が激減している。



<方向性>

⑧持続可能な温泉地のための体制づくり、人材確保及び育成の推進

5つの温泉地の特色を活かした、それぞれの地域づくりを目指して地域ごとの自主的な

活動を促進するとともに、奥飛騨温泉郷全体での温泉地としての体制強化を図ります。
また、観光地を支える人材を確保、育成し、おもてなしの向上を図ります。

2 松本高山Big Bridge構想との関連について

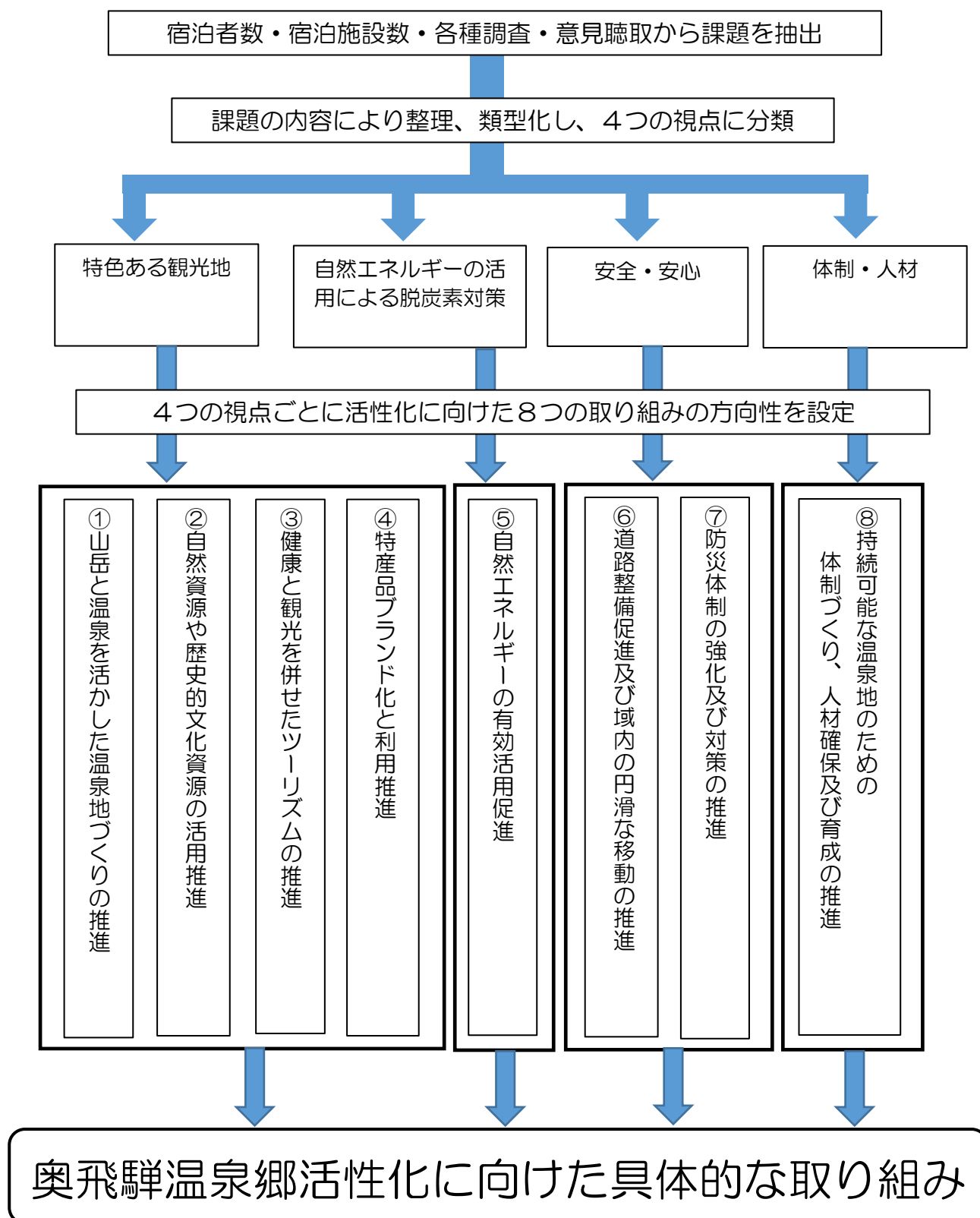
「プログラム 2025」においては、中部山岳国立公園の地域資源を最大限活用し、上質で多彩な利用と滞在を提供することで、「世界水準のディステーション」の実現を目指しています。

また、「松本高山Big Bridge構想」においても、松本市街地と高山市街地を繋ぐ横断ルートを“Big Bridge (ビッグブリッジ)”と位置付け、多彩で上質な体験と滞在ができる魅力的な観光ルートに磨き上げていくことで「世界水準のディステーション」が実現できるとしています。

Big Bridgeの一翼を担う奥飛騨温泉郷において、以下のとおり「奥飛騨温泉郷活性化基本構想」の4つの視点にもとづく取り組みを推進することにより、当地を魅力的な観光地へと磨き上げ、その結果、「松本高山Big Bridge構想」全体の推進に寄与します。

- ・「特色ある観光地」(方向性①②③④)の視点による取り組みにより、奥飛騨温泉郷へ来訪するに値する魅力が生まれ、その結果、「松本高山Big Bridge」に多くの人々が往来することに繋がります。
- ・「自然エネルギーの活用による脱炭素対策」(方向性⑤)の視点による取り組みにより、世界水準の観光地を目指すため「プログラム 2025」において求められている地球環境問題への取り組みを同時に満たすことに繋がります。
- ・「安全・安心」(方向性⑥⑦)の視点による取り組みにより、アクセスの向上や交通拠点としての利便性向上が図られ、その結果、「松本高山Big Bridge」における人々の往来が円滑かつ容易になることに繋がります。
- ・「体制・人材」(方向性⑧)の視点による取り組みにより、人々や組織を含む地域全体が持続可能となり、その結果、「松本高山Big Bridge」を下支えすることに繋がります。

奥飛騨温泉郷の課題、視点、方向性及び取り組みのフローチャート



第4章

奥飛騨温泉郷の今後の取り組み

「第4章 奥飛騨温泉郷の今後の取り組み」における文章表現については、次のとおりとしています。

○原則として

- ・主として市が取り組む場合は「～を行います」
- ・主として市と市民等が協働して取り組む場合は「～をすすめます」
- ・主として市民等が取り組む場合は「～を促進します」

○例外として

- ・文章の末尾が「確保」、「向上」、「強化」などの場合は「～を図ります」

第4章 奥飛騨温泉郷の今後の取り組み

【視点】 特色ある観光地

【方向性】 ①山岳と温泉を活かした温泉地づくりの推進

【今後の取り組み】

- ・国、県、市と連携した取り組みで中部山岳国立公園の活用を図り、近隣自治体や関係団体等との連携による松本高山Big Bridge構想等を推進します。
- ・奥飛騨温泉郷ならではの人情やおもてなし、自然、温泉、食すべての魅力向上に繋げるための人材育成の強化による顧客満足度の向上を促進します。
- ・景観を阻害している電線類や電柱の無電柱化についての検討のほか、空き家や荒廃地への対策、屋外広告物や建築物の色彩、形態意匠等に関するルール策定など美しい景観形成に向けた取り組みをすすめます。

【視点】 特色ある観光地

【方向性】 ②自然資源や歴史的文化的文化資源の活用推進

【今後の取り組み】

- ・インターネットやSNSなどにより、地域の歴史的文化的文化資源の情報発信を行います。
- ・平湯大滝公園及び公園内施設の一部再活用や飛騨・北アルプス自然文化センターとの連携により、自然との触れ合いや安らげる空間利用を図ります。
- ・自然と親しみ森林浴や水辺との触れ合いが満喫でき、溪流釣りなどが楽しめるための環境整備をすすめます。
- ・奥飛騨温泉郷でしか味わえない地域素材や飛騨牛といったブランド食材の提供を行うなど、魅力向上のための取り組みをすすめます。
- ・飛騨山脈ジオパーク構想による調査研究成果の蓄積を活かした自然資源や山岳の魅力の発信をすすめます。

【視点】 特色ある観光地

【方向性】 ③健康と観光を併せたツーリズムの推進

【今後の取り組み】

- ・温泉療法医¹⁴を活用し、適正な温泉利用や健康増進、疾病予防のための温泉利用をすすめます。
- ・国民保養温泉地としての健康増進や湯治（長期滞在）を目的とした温泉利用をすすめます。
- ・クアオルトやONSEN・ガストロノミーツーリズムなどによる健康づくりを目的とした観光をすすめます。
- ・コロナ禍における働き方の変化にあわせ、企業との連携によるテレワーク¹⁵やワーケ

¹⁴ 正しい温泉・気候・物理療養指導を行なえるよう教育研修会全課程を修了した、日本温泉気候物理医学会が認定した医師

¹⁵ 「在宅勤務」「モバイルワーク」「サテライトオフィス勤務（施設利用型勤務）」の3つのテレワークの形態の総称

ーション¹⁶などへの対応をすすめます。

【視点】 特色ある観光地

【方向性】 ④特産品ブランド化と利用推進

【今後の取り組み】

- ・ 奥飛騨温泉郷における市ブランド食材（飛騨牛など）提供の促進と、更なるブランド力向上により、地産地消をすすめます。
- ・ スマート農業など先端技術の活用による生産性の向上や各種商談会などにより、更なる販路拡大をすすめます。

【視点】 自然エネルギーの活用による脱炭素対策

【方向性】 ⑤自然エネルギーの有効活用促進

【今後の取り組み】

- ・ 地域住民の理解を得ながら地熱や水力等の自然エネルギーによる発電の促進や電気の地域内利用、排熱の有効利用をすすめます。
- ・ 事業者へのEVの利用促進をすすめます。
- ・ 自然エネルギーを活用する企業の誘致を行います。

【視点】 安全・安心

【方向性】 ⑥道路整備促進及び域内の円滑な移動の推進

【今後の取り組み】

- ・ 国や県、関係機関に対し、基幹道路の改良のための要望活動等を継続して行い、首都圏など都市部からのアクセス向上を図ります。
- ・ 平湯バスターミナル及び新穂高センター周辺における駐車場整備などにより、乗鞍や上高地、新穂高など周辺観光地への交通拠点としての利便性向上と、交通結節点の強化を図ります。
- ・ 公共交通で訪れた観光客が5つの温泉地を周遊できるような移動手段の確保や、公共交通の乗り継ぎの利便性向上や情報提供の充実を図ります。
- ・ 公共駐車場の整備や案内標識の設置などにより、繁忙期の駐車場対策を行います。

【視点】 安全・安心

【方向性】 ⑦防災体制の強化及び対策の推進

【今後の取り組み】

- ・ 安全・安心のための火山噴火、地震、豪雨、豪雪災害などを想定した防災訓練や防災教育をすすめます。
- ・ 焼岳の噴火への備えとして、近隣自治体や国、県、関係団体との緊密な警戒体制づくりによる連携強化を図ります。
- ・ 国や県と連携した災害に強い道路・河川・砂防事業をすすめます。
- ・ 北アルプス飛騨側登山道等維持連絡協議会等と連携した登山道の整備を継続します。

¹⁶ 「ワーク」と「バケーション」を組み合わせた造語。観光地やリゾート地でテレワークを活用し、働きながら休暇をとる過ごし方

- ・しのぶ砂防ダム親水公園や、たから流路工親水公園の維持管理を継続するとともにミズベリング¹⁷事業の取り組みをすすめます。
- ・除雪事業者との連携による出動体制の強化により、冬期間の安全確保の向上を図ります。

【視点】体制・人材

【方向性】⑧持続可能な温泉地のための体制づくり、人材確保及び育成の推進

【今後の取り組み】

- ・飛騨山脈（北アルプス）の自然環境と温泉街の街並みとの調和や、秩序ある自然エネルギーの活用を図るための地域独自のルールづくり（仮称「温泉地協定」）の策定に向けた支援をすすめます。
- ・顧客満足度を向上させるための人材育成や多様な人材確保の取り組みを促進します。
- ・入湯税の使途のあり方について検討を行います。
- ・観光協会など、団体のあり方の検討をすすめます。

◆奥飛騨温泉郷活性化基本構想の主な事業

P22の参考図は、今後、市が拠点地域として取り組んでいく主なハード事業と地域全体として取り組んでいくソフト事業を示したものです。

¹⁷ ミズベリングの語源は、「水辺+RING（輪）」、「水辺+R（リノベーション）+ING（進行形）」。水辺に興味を持つ市民や企業、行政が三位一体・ひとつの輪となり、持続可能な水辺の未来に向けて改革していく意味が込められている。

第5章

奥飛騨温泉郷活性化基本構想 の推進にあたって

第5章 奥飛騨温泉郷活性化基本構想の推進にあたって

構想の推進にあたっては、市民や地元観光協会、観光事業団体、まちづくり協議会、行政などがそれぞれの立場から、役割を分担し、改善に向けた取り組みを行うことにより、奥飛騨温泉郷地域全体の協力体制を確立し、課題解決のための連携を図ります。